

葉ハ竹葉ニ似テ厚ク長シ、深綠色圓實ヲ結ンデ葉間ニ垂ル、一枝數顆、生ハ青ク熟シテ赤シ、庭際ニ多ク種ユ、又一種黃實ノモノ、白實ノモノアリ、又黃ニシテ光ル者アリ、キンミノタチバナト云、此外品類甚多シ、

増、花戸ノ稱呼種種アリ、變葉ニタラヤウバ、ホウワウバ、スルガバ、スルガチリメン、チリメンバ、チヤボバ、テリハ、タカノハ、カシハバ、アザミバ、ウスバ、ワシバ、サバ、オホハ、カツラチリメン等アリ、コレニ各白實、黃實、水晶實等アリ、葉ニ班ノ入タルニツマジロ、シモフリ、ベタフ、フリトリ、ホシフタテフ等ノ名アリ、又ナバゲト云アリ、實ヲ蒔テ七種ニモ變ズルナリ、コレニモ八幡バケ、江戸ナ、バケ、彦根ナ、バケ等ナリ、

〔草木育種_下 葉或實視べきもの〕紫金牛_{（やぶぢ）} 種類多し、黒ぼく野土等の竹林の下に植ればよく繁茂なり、鉢に植るには水拔をよくして、雨除の下陰地に置べし、米泔水又油糟など少し澆てよし、〔橘品類考〕本草家の説に、千兩金_{（せんりやうきん）}和名カラタチバナと云、これ本艸綱目に云、百兩金のたぐひなるがゆへなり、

貝原篤信云、茅藤果_{（かものたけはな）}高サ尺に不過、實ハ紅なり、好事の者盆に植ゆ、京都の方言にカラタチバナと云、筑紫にてヤブコウジと云ものなりといへり、

平地木_{（ひらぢき）}和名ヤマタチバナ、春花さき夏實のり、秋にいたりて熟す、不可啖、高サ數寸にすぎず、衆木の中に於て最小なるものなり、又小青樹通仙木となづく、葉ハ枇杷に似て小にしてあつし、世俗おふく庭にうゆと、遵生八牋など、中華の書にみへたり、

右にいふ茅藤果_{（かものたけはな）}平地木_{（ひらぢき）}の二品、世俗今通じてタチバナトなづけて、専ら鉢植となして賞玩す、俗に橘の字を書するは訛なり、橘は柑類の總名にして、密柑、柑子、金橘_{（きんきつ）}のたぐひすべて、の總名なり、橘は日本紀に垂仁天皇田道間守_{（すくねのちか）}垂仁帝ノ臣下也_{（すくねのちか）}を、常世の國に遣して、非時の香果を求しむ、こ